◎ヒシファーゲン配合静注シリンジ，○ネオファーゲン静注20mL，▼強力ネオミノファーゲンシー静注　［注］

【重要度】　【一般製剤名】グリチルリチン酸一アンモニウム＋L-システイン＋グリシン　Monoammonium Glycyrrhizinate＋L-cysteine＋Glycine　【分類】肝臓疾患用剤・アレルギー用剤

【単位】◎20mL/シリンジ

【常用量】■1日1回5～20mL■慢性肝疾患：1日1回40～60mL［最大100mL］

【用法】静注

【透析患者への投与方法】常用量（5）

【その他の報告】無尿患者でも1g/日のグリチルリチン酸投与により血漿カリウム濃度は平均5.5mEq/Lから4.9mEq/L（1週間投与），4.5mEq/Lに低下する（2週間投与）．血圧には変動なく血漿cortisol/cortisone比が低下する．このことは腎外の鉱質コルチコイド受容体が主要な役割をなしている［ただし投与量がかなり多い］(Serra A, et al: J Am Soc Nephrol 13: 191-6, 2002)

【保存期CKD患者への投与方法】常用量（5）

【特徴】20mL中，グリチルリチン産モノアンモニウム53mg（グリチルリチンとして40mg），グリシン400mg，L-システイン塩酸塩20mg含有．抗原抗体反応の抑制とそれに続く組織炎症の抑制，網内系機能の活性化により抗アレルギー作用を示す．ウイルス性肝炎でAST，ALTの明らかな低下を示し，肝の組織所見においても炎症像が改善する．

【主な副作用・毒性】ショック，アナフィラキシー，偽アルドステロン症，ミオパシー，血清K低下，嘔気・嘔吐，血圧上昇，咳嗽，一過性の視覚異常，全身倦怠感，異常感覚，気分不良，頭痛，熱感，過呼吸症状など

【代謝】グリチルリチンの主要代謝物はglycyrrhetic acidで，経口投与後血漿中にグリチルリチンは検出されない（Yamamura Y, et al: J Pharm Sci 81: 1042-6, 1992）グリチルリチンはヒト腸内細菌Eubacterium属やバクテロイデスJ-37によって主要代謝物18β-glycyrrhetinic acid（GA）になり，streptococcus LJ-22によってマイナーな代謝物としてglycyrrhetinic acid-3-O-beta-D-glucuronide（GAMG）になる．GA，GAMGともにグリチルリチン以上の血小板凝集抑制作用や腫瘍細胞毒性を持ち，H.pyloriの成長阻止，ロタウイルス感染防止作用を有する（Kim DH, et al: Arch Pharm Res 12: 172-7, 2000，Kim DH, et al: Biol Pharm Bull 22: 320-2,1999）

【排泄】グリチルリチンの尿中未変化体排泄率は 1.1～2.5%，グリチルリチンの代謝物 glycyrrhetic acid、glycyrrhetic acid-3-glucronide は尿中に検出されない（Yamamura Y, et al: J Pharm Sci 81: 1042-6,1992）

【CL】グリチルリチンのCL：健常者16～25mL/hr/kg（Yamamura Y, et al: J Pharm Sci 81: 1042-6,1992）肝炎2.8～23.2mL/hr/kg，肝硬変1.4～12.9mL/hr/kg（Biopharm Drug Dispos 16: 13-21,1995）

【t1/2】グリチルリチンのt1/2：健常者2.4～4.8hr（Yamamura Y, et al: J Pharm Sci 81: 1042-6,1992）肝炎2.7～7.6hr，肝硬変6.2～40.1hr．健常者は肝炎の1/2，肝硬変の1/8（Biopharm Drug Dispos 16: 13-21, 1995）

【蛋白結合率】グリチルリチン：99%以上（1）

【Vd】グリチルリチンのVd：59～98mL/kg（Yamamura Y, et al: J Pharm Sci 81: 1042-6, 1992）

【MW】839.96（グリチルリチン）

【透析性】グリチルリチンは蛋白結合率が高いため除去されにくいと思われる（5）

【薬物動態】長期投与の肝硬変患者ではグリチルリチン、glycyrrhetic acidが蓄積する（日本消化器病学会雑誌 92: 1929-1936,1995）

【相互作用】血清K低下に関連する相互作用に注意（1）

【備考】ミノフィット注シリンジの外包装開封後7日まで安定［室温，散光下］（1）

【更新日】20230920

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。